

おかげさま と ありがたい の話



おはようございます。(おはようございまあす。)

今、6年生のお兄さんが緊張してうまくお話できない時に、皆さんはじっと黙って静かにお待ちいてくれました。先生方も応援していただきましたが、1年生から6年生までの皆さんの「がんばれ、がんばれ・・・」という心の声が静かでシーンとした体育館のなかにあふれていました。応援する心、これが桃五小のチームワークです。一人では失敗しそうでも、みんなの応援があるから大丈夫。ありがとう。だから、そのあとに続いた、6年生の『みんなで朝のあいさつをしましょう。お早うございます。』の言葉に、気持ちを一つにしていつにもまして元気に挨拶ができました。

さて、今日で11月は終わり。明日から12月。もう12月、1年の最後の月。いつのまにか、今年も終わりに近づいてきました。

この一年間、1年生も2年生も、3年生も4年生も、5年生も6年生も、みんなみんないろいろなことがあって、でもどのみなさんもきっといろいろな人の力を借りながら、いろいろな人のおかげで、元気に過ごして行くことができたのだと思います。

そして、この1年間で、年長さんが1年生に、1年生が2年生に、2年生が3年生に、3年生が4年生に、4年生が5年生に、そして5年生だった皆さんが今6年生になってがんばってくれているのです。みんなみんな、力を合わせ助け合いながら1年間の間元気に過ごし、一つ一つできないことをできるようにしてきたのですよね。

そして、最後の月、12月をむかえることができるのです。

そこで今日は、毎年12月近くになると話す『おかげさまとありがたい』というお話をします。去年もお話をしたので覚えてくれている人もいるかもしれません。

先週、5年生が、「連合音楽会」と言って杉並の小学校5年生が集まって、演奏したり、歌を歌ったりする演奏会に荻窪の杉並公会堂まで行ってきました。

皆さんも音楽会できいた曲目を、桃五小の5年生は、気持ちを込め、心を一つにして素晴らしい歌声と演奏を響かせてきました。

自分の学校をほめるのも何ですが、とっても素晴らしかったです。内緒だけど一番素敵だなあ、と思いました。そして、学校まで帰って、「がんばりましたねおつかれさま・・・。」と挨拶をして、みんなが教室へ戻り、私も職員室に戻ろうとすると、5年生の方から「校長先生、ありがとうございました。」と、精いっぱい元気に気持ちのよい挨拶が聞こえてきました。なんだかとてもうれしくて元気の出る素敵な気分になりました。

そして、「ありがとう」、「ありがたい」、って思える人はすてきだなと思いました。そして今からするお話のおじいさんのことを思い出しました。

もう10年以上も前に亡くなられた方ですが、お元気だったら、今一番会いたいおじいさんがいます。そして、12月になると、このおじいさんのことを思い出します。

この方は、いつもお会いすると、「おかげさまでね・・・。」「・・・、ありがたいことだよ。」という言葉が口癖で、いかにもありがたそうに優しくお話しをなさる方でした。

おかげさまでいい天気。おかげさまで大根が大きくなった。おかげさまで元気でいられる。

おかげさまで・・・。おかげさまで・・・。ありがたい、ありがたい。

こんなふうに、いつもいつもお礼を言っているようにみえますが、このおじいさんは決して人のお世話になっている人でも、人に助けられてばかりいる人でも、ありません。いえいえ、それどころか、逆に人のことをいつも心配して、いつも人の手助けをして、どんな人でも困っていればその人の相談にのり、一緒に悩み、自分のできることは何でもやってあげる。自分のことだけでもいそがしいのに人のことを先にやってあげる。そんな、おじいさんなのです。

それなのに、いつも「おかげさまで・・・。」

いったい誰のおかげなのでしょう、むかし誰かに助けられたのでしょうか・・・。

いえいえ、そうではありません。このおじいさんは、いつも人に感謝する気持ち、ありがたいという気持ちを忘れない人なのです。誰かのおかげで、自分は元気で幸せにすごすことができる、「ありがたい ありがたい」と、思える人なのです。

「おかげさまでね、孫の書いた習字がね、廊下に張り出されているのでね、見させていただきま
すよ、ありがたいことに先生がよく見ていて、励ましてくれてるんでしょねえ。孫がうちで、
先生がほめてくれたって言って大喜びですよ、おかげさんでこれまで苦手だった習字が大好きに
なっちゃった。おかげさまでですよ。ありがたい、ありがたい。」

そして、そんなどんなことでもありがたいと思う感謝の気持ちがあるからこそ、近くに困っ
ている人がいれば、黙ってその人のために精一杯のことをして助けてあげられるのです。それも「当
たり前でしょう。」「お互い様ですよ。」といいながら。

ですから私もこのおじいさんとお会いすると、思わず「おかげさまで・・・。」という気持ちに
なり、どんなことでもお手伝いさせてもらいたいな、という気持ちになってしまいます。

ところがね、桃五小の教室を回って、オープンスペースからそっと見ていると、ありがとうの
とかおかげ様の反対言葉。「どうせ」、「のに」、「でも」、「だって」、の人がけっこうたくさんいる
のが、とても悲しいのです。

「どうせぼくなんか・・・。」とすねてしまったり、「こんなにがんばっているのに・・・。」と
言い訳をしたり、いつも手助けしてくれている友だちに向かって「でも、〇〇ちゃんだって僕
のこと押しもん。」と叩いてしまったり、「だって、お母さんが・・・。」と、自分のことは反省もせ
ず人のせいにしてしまったり・・・、自分のことは反省もせず、いいわけばかり。こんなことでは、
悪いところをなおすこともできないですよ。

人は皆、誰も一人では生きていけません。気づかずにいるだけで、どこかで必ず誰かに助けら
れているはずなのです。けれどもそのことを感じる心、「ありがたいと思う心」。「おかげさまと思
う心」いつの間にか忘れていませんか。

来年は皆さん、1年生は2年生に、2年生は3年生、4年生は5年生、5年生は6年生、そし
て6年生は中学生です。

明日から12月。来年に向けた大切なまとめの月。

さてさて、皆さんは「おかげさま・・・」「ありがたい・・・。」と改めてまわりの人に感謝してす
ごし、新しい年を迎えることができるのでしょうか。

それとも逆に、自分の失敗や悪いことは人にせいにして、「どうせ、のに、でも、だって」と思
って人のせいにしたりいいわけばかりしてしまうのでしょうか・・・？

どちらでしょう・・・。今年の終わりの月、12月にひとつ「今年1年間の自分」のことを考え
てみてください。

